

城山中学校におけるSDGs構想の実現イメージ【令和4年度】

<SDGsに取り組む目的>

学校経営の方針キーワード「粘り強く取り組む」「自己有用感」

2030年は現中学生が21～23歳になる時期であり、他地域や他国のの人々と交流する際に、「SDGsへの取組」は共通言語（共通の話題）になると思われる。そのために、中学生の時期にSDGsを活用した学習に取り組む経験を積むことにより、他地域や他国のの人々との交流に対して自信をもって対応できる人間の育成を目指す。

Step1 SDGsを学ぼう

目標・SDGsの基礎知識を学ぶ

- （総合、学活、技術科、外部講師など）
- ・生徒会専門委員会で取り組むことのできる目標(ターゲット)を実践する。

Step2 SDGsと城山地区の課題を 繋げよう

目標・城山地区の課題を見つける。

- （あったか活動、宮チャレ、修学旅行など）
- ・課題がSDGsの目標(ターゲット)のどれに合致するか考える。
- ・課題解決の具体策を考える

Step3 SDGsの活動を発信しよう

目標・具体策を実践し、まとめる。

- ・他地域、他国のグループと情報交換をする。
- ・実践の見直しと次年度の計画を立てる。

<期待する変容>

生徒	視野の拡大		主体的な行動		交流による深い学び
	・世界的な流れに目を向ける ・生徒会活動とSDGsを結びつける		・地区の課題をSDGsに結び付けて考える ・課題解決のための実践 ・情報交換準備		・他地区、他国との情報交換による振り返り ・地域で持続可能な取組の実践

教員	・生徒へSDGsへの取組を啓発する ・生徒会活動への働き掛け ・SDGs出前講座の実施（1，2年） ・図書室にSDGsコーナーを設置		・自治会長と生徒による意見交換の実施 ・学校園内のSDGsへの取組を共有する ・教科（領域）指導とSDGsを関連付ける ・学校園内小学校への発信検討		

※ 教員は、生徒と地域の変容を結びつける支援・仕掛けを行っていく。【検討事項】

地域	学校活動への理解		城山地区の課題を中学生と共有		地域を支える人材の育成
	・配付物、HPによる周知 ・自治会長への働き掛け		・城山あったか活動による共通理解の促進 ・自治会単位での活動の推進		・地域の住民と協働した取組による育成 ・地域の取組を協働してPRする活動

